

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】令和5年4月4日(2023.4.4)

【国際公開番号】WO2020/198587
 【公表番号】特表2022-527473(P2022-527473A)
 【公表日】令和4年6月2日(2022.6.2)
 【年通号数】公開公報(特許)2022-098
 【出願番号】特願2021-557634(P2021-557634)
 【国際特許分類】

10

C 1 2 Q 1/68(2018.01)

A 6 1 K 31/711(2006.01)

A 6 1 P 35/00(2006.01)

G 0 1 N 33/50(2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68

A 6 1 K 31/711 Z N A

A 6 1 P 35/00

G 0 1 N 33/50 P

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年3月27日(2023.3.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

がんを有し、I G F - 1 R A S O D Nに、又はI G F - 1 R A S O D Nによる治療に
 応答する可能性が高い対象を特定すること、及び前記対象にI G F - 1 R A S O
 D Nを投与することを含む方法であって、I G F - 1 R A S O D Nに
 応答する可能性が高いことは、

30

a) 前記対象におけるM G M Tメチル化を判定すること、及び

b) 前記対象におけるT細胞機能を判定すること

からなる群から選択される少なくとも1つによって評価される方法。

【請求項2】

前記可能性が高いことは、

a) 前記対象におけるM G M Tメチル化を特定すること、及び

b) 前記対象における良好なT細胞機能を判定すること

からなる群から選択される少なくとも1つによって確立される、請求項1に記載の方法。

40

【請求項3】

がんを患っている対象のI G F - 1 R A S O D Nに
 応答した予後を予測する方法であって、

a) 前記対象におけるM G M Tメチル化を判定すること、及び

b) 前記対象におけるT細胞機能を判定すること

からなる群から選択される少なくとも1つを含む方法。

【請求項4】

a) 前記対象におけるメチル化M G M Tは、良好な予後を示し、

b) 前記対象における良好なT細胞機能は、良好な予後を示し、

50

c) 前記対象におけるメチル化 M G M T 及び良好な T 細胞機能は、良好な予後を示し、

d) 前記対象における非メチル化 M G M T は、予後不良を示し、

e) 前記対象における不十分な T 細胞機能は、予後不良を示し、又は

f) 前記対象における非メチル化 M G M T 及び不十分な T 細胞機能は、予後不良を示す、
請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記 T 細胞機能が、刺激に応答して I F N - を発現する T 細胞の数を評価することによって判定される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

テモゾラミドが前記対象に投与される前に、I G F - 1 R A S O D N が前記対象に投与される、請求項 1 に記載の方法。 10

【請求項 7】

I G F - 1 R A S O D N が自家がん細胞ワクチンとして前記対象に投与される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

I G F - 1 R A S O D N が完全に製剤化された生体用拡散チャンバーとして前記対象に投与される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

生体用拡散チャンバーは、(a) 前記対象から得られた腫瘍細胞を、I G F - 1 R A S O D N の存在下で生体用拡散チャンバーに封入し、ここで、チャンバー内の腫瘍細胞：I G F - 1 R A S O D N の比は約 3.75×10^5 : $1 \mu\text{g}$ ~ 約 6.25×10^5 : $1 \mu\text{g}$ の範囲であり、前記腫瘍細胞は前記対象から得られ、さらに (b) 前記生体用拡散チャンバーに放射線照射することによって調製される、請求項 8 に記載の方法。 20

【請求項 10】

前記腫瘍細胞が生体用拡散チャンバー内に配置される前にネスチン発現に関して濃縮される、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

チャンバー内の腫瘍細胞が、前記対象から得られた腫瘍細胞と比較して、接着細胞について濃縮される、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 12】

細胞がチャンバーに封入される前に I G F - 1 R A S O D N で処理される、請求項 9 に記載の方法。 30

【請求項 13】

I G F - 1 R A S O D N が配列番号 1 の配列を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

2 つ以上の生体用拡散チャンバーを前記対象に植え込むことを含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 15】

がんが脳のがんである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 16】

前記対象がヒトである、請求項 1 に記載の方法。 40

【請求項 17】

前記 T 細胞機能が、刺激に応答して発現する I F N - の数を評価することによって判定される、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 18】

テモゾラミドが前記対象に投与される前に、I G F - 1 R A S O D N が前記対象に投与される、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 19】

I G F - 1 R A S O D N が自家がん細胞ワクチンとして前記対象に投与される、請求項 3 に記載の方法。 50

【請求項 20】

IGF-1R AS ODNが完全に製剤化された生体用拡散チャンバーとして前記対象に投与される、請求項3に記載の方法。

【請求項 21】

IGF-1R AS ODNが配列番号1の配列を有する、請求項3に記載の方法。

【請求項 22】

がんが脳のがんである、請求項3に記載の方法。

【請求項 23】

前記対象がヒトである、請求項3に記載の方法。

10

20

30

40

50